

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和元年度第1回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 令和元年6月26日(水)午前10時から午前11時52分まで
- 3 開催場所 駅東地域交流センター 大会議室
- 4 会議に出席した者
 - (1) 委員 小野俊次会長、佐藤美佳副会長、伊藤秀司委員、佐々木義夫委員
 - (2) 事務局 相原浩子、横山太一、菅井晶、伊藤博人
山口保広、永沼威雄、高橋ゆかり、田村紗希
 - (3) その他 宮城県保健福祉部長寿社会政策課地域包括ケア推進班 相澤裕介 氏
宮城県保健福祉部長寿社会政策課地域包括ケア推進班 伊藤理紗 氏
宮城県社会福祉協議会震災復興・地域福祉部 佐藤正 氏
宮城県社会福祉協議会震災復興・地域福祉部 菊池琴美 氏
- 5 議題及び会議の公開・非公開の別
議題
 1. 報告
 - (1) 協議会委員の交代について
 - (2) 生活支援体制整備事業の概要について
 - (3) これまでの協議経過について
 - (4) 生活支援コーディネーターの活動について
 - (5) 前回のふりかえり
 2. 協議事項
 - (1) グループワーク
 - (2) 視察研修について

3. その他

- (1) 志水先生著「地域づくりハンドブック」について
- (2) みさとのラジオ体操DVDについて
- (3) 生活支援コーディネーター養成研修について

会議の公開・非公開の別

公開

6 非公開の理由

7 傍聴人の人数

0人

8 会議の概要

(1) 報告事項の内容及び議題の審議結果等

報告事項

- ・協議会委員の交代について
遠田商工会の遠藤いづみ委員に代わり、白石淳弥氏が新たに委員として就任した。
- ・生活支援体制整備事業の概要について
制度の目的・概要等についての説明について美里町社会福祉協議会の永沼課長から説明
- ・これまでの協議経過について
平成27年度から平成30年度までの活動内容及び協議内容及び経過について、美里町社会福祉協議会の高橋から説明
- ・生活支援コーディネーターの活動について
美里町社会福祉協議会の高橋から生活支援コーディネーター活動日誌を用いて主な活動内容についての報告
- ・前回のふりかえり
平成30年度第4回美里町生活支援体制整備協議会の協議事項内容について、美里町社会福祉協議会の高橋から説明
 - 1) 平成31年度に介護予防・生活支援に資する担い手の養成や地域資源リスト(仮)の作成を実施する
 - 2) 平成30年度美里町生活支援体制整備協議会啓発事業の当日のタイムスケジュール及び担当箇所の確認及び全体リハーサルの実施

協議事項

- ・グループワーク～美里町でいつまでも自分らしく暮らせるために～
- ・視察研修について

署名委員

小野俊次会長、伊藤秀司委員

(2) 協議事項における詳細な意見

高橋	<p>これより令和元年度第1回美里町生活支援体制整備協議会を開会します。今回は、宮城県保健福祉部長寿社会政策課より包括ケア推進班の相澤さんと伊藤さんに出席いただいております。また、宮城県社会福祉協議会震災復興・地域福祉部より菊池さんと佐藤さんにお越しいただきました。本日は総勢16人で進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p> <p>まず始めに開会のあいさつを小野会長からお願いいたします。</p>
小野会長	<p>お暑い中、参集いただきありがとうございます。</p> <p>ある本で、あなたがコーディネーターだったら、どのようなことをしますか？と書かれていたのを見て色々と考え、うちの町のコーディネーターの活動は本当に素晴らしいなと思いました。</p> <p>今年度、第1回目の会議ということで報告やグループワークもありますので、ざっくばらんに色々な話をして進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>
	<p>署名委員については事務局一任ということで、小野俊次会長、伊藤秀司委員に決定した。</p>
高橋	<p>それでは早速、3.報告に入ります。</p> <p>(1)協議会委員の交代について1頁目を御覧ください。昨年、商工会の代表ということで、遠藤いずみ委員にお願いしていたのですが、業務の関係もありまして、今回、委員の交代ということで商工会の主査経営指導員の白石淳弥さんに交代となりました。</p> <p>本日も来ていただくということで調整させていただいておりましたが、急な出張のため欠席となっております。</p> <p>(1)は以上になります。</p> <p>続いて(2)の生活支援体制整備事業の概要について、横山技術主査から説明をお願いします。</p>

横山技術主
査

では横山の方から別刷りのA4横の資料「生活支援体制整備事業の概要」を使って、改めて振り返っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

1枚表紙を捲っていただくと、この事業は何かということが書かれております。段階の世代の方が75歳以上となる2025年を目処に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療、介護予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきますと書かれているところです。こう書かれているとなかなか難しくて分かりにくいところもあるので、この後、少し普段使いの言葉でこの部分を触れていけたらなと思っております。

これからの美里町の人口も少しずつ減っていて、若い方も少なくなっていくところで、今まで介護保険のヘルパーさんとかだけで個人を支えてきた地域は、今後少しだけ大変になってくるのではないかと、いうところから、今あるものを活かして支えあっていけると地域の方がこれからも過ごしやすいくなるのではないかなというところの考えの事業になります。

次の頁を御覧ください。年に4回、皆さんに集まっていたいて、お話をしているところなのですが、目的というところが記述してあります。と書いてあるところが、いままで取り組んできたところの目的になりまして、振り返りになるのですが、というところは地域における助け合いや支えあいを推進していきましょと、具体的には高橋の方で、色々な地域の情報を集めてくださって、それを「大切なもの」と意味付けして情報誌「おげんきですか」に掲載して、他の地域の皆さんにもどんどん広げていくところが、このに関わってきているかなと、そのようにずっと続けていけば支えあいの意味とか、美里町ってこんな人たちがこんなことをやっているのだとか、このようなことが広まっていった徐々に支えあいが広がっていくことを期待できると良いなと思っております。

ですが、高齢者の方が住みなれた地域で生きがいを持って暮らせるように以下の2つを推進すると書いています。地域で高齢者を支える体制作り、多様な主体による様々なサービスの強化、これはどういう事かという、下の矢印のところに書いてあるのですが、現在、美里町は色々な団体の方とか個人の方が地域で様々な活動をしてくださっているところなのですが、バラバラに動いていたらもったいないというところで、一緒に1つに向かって考えていければいいかなということで、定期的かつ継続的な情報共有とか、できることを探してい

きましょうとか、連携を強化していきましょうとか、このようなことが大きな目的であると書いてあります。

になります。みな、多種多様な活動を既にしてくださっているのですが、そのような個人の方とか団体の方が、せっかくなら手を取り合って地域づくりをしていって、住民の方がこれからもこの美里町で暮らせるようにというところで書いてあるところです。その手を取り合うために、人や団体や、それぞれの想いとかを繋いでくれる役割の人と地域の未来や夢を語れる場が必要かなというところで、実はその繋ぎ役というのが生活支援コーディネーターであったり、その未来に向かって語れる場というところが、今、お集まりいただいているこの場のことかなと思っています。

次の頁、最後のまとめになるのですが、なかなか終わりが見えないとか成果が見えないと言われるところではあるのですが、今回のこの話し合いは成果とか終わりが見えなくとも良いのかなと思っているところです。というよりも、このような形で続けていくことが必要なのだと思っており、最終的な目標は地域の住民がこれからも住みなれたところで暮らし続けたいという願いを叶えるために何ができるのかなと考えるところと、ご近所とか行政区とか介護サービスとか医療サービスとか、独り暮らしで病気などにより暮らしが大変になっても、しっかりと手を組んで支えることができれば1日でも長く地域で暮らせる日々というのを続けることができるのかなと思います。

そのために何か新しいものを作ろうというわけではなくて、既にあるご近所の支えあいとか、団体の活動を大切にしながら、今ある活動を宝として意味付けして広め長く続けていくことを目指すとか、住民の方が色々な活動に参加できることで、新たな繋がりや支えあいが生まれたりとか、参加する方がこれを以て健康でいられることを目指していきたいと思います。

教育と教養というところで、今日行く所と今日用事がある人は健康でいられますよというような話が最近あるのですが、このようなことも考えていきたいところです。

次に様々な個人や団体が既に関わってくれているので、バラバラに活動するよりもみんなと一緒に話し合っ分り合えれば、手を組んでやれるのかな、そのような場に、この場がなれば良いのかなと考えます。

最後ですけど、小野会長も仰ってましたが、話し合いを続けることが大事かなと思っていました。話し合いを続けることで焦らずゆっくりと、こんな町だったらもっといいんじゃないの？とかワクワクと話

	<p>しをしながら、これからも続けていければと思っております。</p> <p>今まで何年も話し合ってきたのですが、これからもここにいる皆さんとお話を続けていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
高橋	<p>ありがとうございます。</p> <p>何か御質問などはございますか？</p> <p>無いようですので、続いて（３）のこれまでの協議経過について永沼課長より御報告申し上げます。</p>
永沼	<p>今、横山さんより体制整備事業の概要・理念・目的となるところをお話いただきましたが、では、美里町の生活支援体制整備協議会としてはどのような話し合いをしてきたか、事業的な部分でいくつかやってきたものもあるので、改めてその部分を振り返りたいと思っております。</p> <p>冊子の２ページ目からになります。実は平成２７年度からこの事業が始まっておりまして、平成２７年度は準備委員会という事で最初は町の直営事業として始まったものです。地域包括支援センターの方々の管轄のところで、横山さんが話したような概要やどのようなことをやっていくのかを中心に２回開催しております。その中でも社会資源とか来年度をどうしていくのかといった話し合いがあって、平成２８年度についても町の直営ということで事務局を持って行っていました。平成２８年度から年間４回の協議になっていきました。</p> <p>社会福祉協議会で行っている地域福祉力UP情報交換会、地区社協をエリアとした話し合いの中で出ている生活課題のことであったりとか、相談窓口がどんなところがあって、皆さんどのような相談が寄せられているのか話しております。研修などもこの段階で始めているというのが平成２８年度です。</p> <p>平成２９年度からは町から社会福祉協議会が委託を受けて事務局を担うこととなりました。それから生活支援コーディネーターも６月から配置し事業を行ってきました。ここから要綱を整備し、会長及び副会長についても位置づけたところです。ここでは協議会とはそもそもどのような話し合いをしていくのか等を確認してきたところです。</p> <p>また、事業や地域のお宝を地域へ広めていこうということを意図して広報紙を発行し、啓発事業という事で年度末に住民の皆さん向けのお宝の発表も含め講話なども行ったところです。</p> <p>広報紙のタイトルの選定や掲載内容について、皆さんに御相談しな</p>

	<p>から作成していきました。</p> <p>5 頁目が平成 30 年度の協議の中身ですが、平成 29 年度を振り返りつつ日常生活圏域のイメージ共有という事で、日常生活圏域は介護保険事業計画では美里町では 1 つの圏域ということで決まっていますが、町全域の中で誰がどのように関わっているのか、どのような団体が活躍しているのかというのを介護の場で貼り出し、そのような資料を活用しながらイメージを共有していったのと、地区社協でやっている地域福祉力UP 情報交換会の参加者の方の声と、専門職の方々の多職種連携ワーキングといったところから出てきた地域生活課題、そういったものも協議会に情報提供させていただきながら住民の方が持っているものと、専門職の方が持っているものを共有させていただいたのかなと思っております。</p> <p>また、広報紙についてもテーマを設けて啓発していった方が良いのではといった御意見を受け、前年度は健康づくりや介護予防をテーマとして広報紙を発行していったという形です。</p> <p>3 月には例年の啓発事業も行いました。資料 6 頁が写真で当時の活動を振り返っております。</p> <p>7 頁、そもそも協議会はどんなことを話し合うのかということ、例えばということを書いております。先ほど横山さんがお話した部分と重複しますので割愛しますが、協議会の場と地域住民の声を聴く場として地域福祉力UP 情報交換会を今年度も継続して、地区社協さんと共催して行っていきますし、後は多職種連携ワーキングといった専門職の方々が感じていること、できることなどの声なども、この協議会にも報告するなどできればなと思っております。</p> <p>以上です。</p>
高橋	<p>ありがとうございます。</p> <p>本日、今年度の 1 回目の会議ということで改めて体制整備の概要と協議会の経過について報告をいただきました。</p> <p>何か御意見、御質問等ありますか？</p>
高橋	<p>続いて(4)の生活支援コーディネーターの活動についてということで 8 頁を御覧ください。</p> <p>こちらの頁から 10 頁までが活動の日誌になっております。訪問履歴なども書いております。今回、訪問して印象的だったところがありましたので、御紹介させていただきます。</p> <p>5 月 16 日に訪問した佐野のカラオケ会なのですが、任意の方々、80 歳から 90 歳までの女性の方の集まりで 11 人集まって、お茶会</p>

をしておりました。もともとカラオケ教室で講師の方に来ていただいていたらしいのですが、講師の方が体調が悪くなって講師の方が来なくなっても、活動は継続しているとのことでした。

色々とお話を聞く中で地域情報として近くに齊田商店というお店自体はやっていないのですが、そこの方が近所の方々の御用聞きをしていて、砂糖とか醤油とか、ちょっとした飲み物とかその方に頼むと、卸屋さんに直接頼み、毎週土曜日に卸屋さんが来て皆さんに販売して下さるとのことでした。交通の手段が無い方たちが多いので、そのような方たちにとっては助かるという意見を聞かせていただくことができました。その品物を渡した後にお茶会もやっているよということで、今度、訪問してみたいなと思っておりました。

あと4月から6月にかけては「美里のラジオ体操」が完成したということもあって、それを啓発しながら地域にお邪魔させていただくことが多くありました。

今後も地域にどんどん訪問していきたいと思います。

広報誌「お元気ですか」も6月1日に発行いたしました。3月に実施した啓発事業の報告も兼ねた記事となっておりますので、こちらも時間のある時にでも御覧いただけたらと思います。

活動報告は以上になります。

質問・意見等なし

高橋

続いて(5)の前のふりかえりに入りたいと思います。

昨年度3月末に啓発事業の前に協議会を開催しました。その際に協議事項1つ目として平成31年度、令和元年度の生活体制整備事業の活動方針について協議いたしました。

平成30年度に実施した地域福祉力UP情報交換会や店舗サロンだったり、暮らしの手伝い隊、子供たちが高齢者のお宅にお邪魔して生活の困りごとのお手伝いをするという活動を通して、それらの活動から少子高齢化、社会的孤立、制度の狭間問題といったものが沢山見えてきました。

それらが住民の暮らしに沢山影響をもたらしているという事もわかりました。町の社会福祉協議会主催のサロンサポーター養成講座で行ったアンケートでは、既に地域の中では大きな支えあいが行われていることがわかりました。支えあいによる生活支援の重要性って大事だよねというところを委員の皆さんで共通理解をしました。

続いて令和元年度は近隣同士の自然な支えあいの生活支援をテーマに介護予防及び生活支援に資する担い手の養成だったり、地域資源リ

	<p>ストの作成などを検討していった支えあいの地域づくりを推進していくということでまとめさせていただきました。</p> <p>協議事項2については啓発事業のスケジュールを確認していただきました。</p> <p>本日の協議事項(1)が前回の4回目の協議の際に載せた資料と同じになっております。</p> <p>そして啓発事業の際にアンケートを実施させていただきました。その集計結果が14頁から16頁になります。開催の趣旨についても皆さん御理解いただけたという意見が多くありました。お時間のある時にお目通しいただけたらと思います。</p> <p>1つ報告として、この啓発事業に来ていただいた参加者の中でケアマネジャーがいらっしゃって、登壇されたかたと自分の利用者さんを会わせたい、会ってお話をしていただきたいという、その利用者さんがモチベーションが下がっていたということで、当事者同士だったらケアマネジャーの言葉よりも、言葉が響くのではないかとということでお電話をいただいております。</p> <p>啓発事業の効果があり、嬉しく思っております。</p> <p>以上になります。皆さんから意見等ございませんでしょうか？</p>
佐々木委員	<p>成果かどうかは別として、例のラジオ体操のDVDについて、現状として私は関根行政区に住んでいるのですが、お茶っこ会をやりましょうと福祉部を立ち上げて企画して実施するようになったのですが、去年は1回の実施でした。今年は既に2回実施と増えており、今までの様々な取組や活動が浸透してきているのかなと思っております。</p> <p>その中でいつも求められるのが、やはり軽体操というかですね、認知症の予防も兼ねて身体をほぐす軽体操が要求されていて、やってくれと言われた際には、今まで私が色々勉強してやっていたのですが、今回のDVDのラジオ体操は若い頃は実施する事になんともなかったのですが、年をとってから体操をすると結構身体に適度な負荷がかかるんですね。ですからあの動画は今後すごく活用できるのかなと思いました。</p> <p>もう1つ感じたのはラジオ体操を正確にできる人、手を振る、足を上げる、色々ありますよね。それを正確に教えてくれる人が1人、もしくは誰かが勉強して、お茶っこ会を始める前に先生などが体操を指導してくれるなどすると非常に良いのかなと感じました。</p>
高橋	<p>ありがとうございます。</p> <p>実は明後日の金曜日に広報紙おげんきですかの裏面でも募集はして</p>

	<p>いるのですが、ラジオ体操の講習会を行おうと思っておりました。</p> <p>あとDVDのお披露目も兼ねまして、宮城県のラジオ体操連盟の方に講師として来ていただいて、正しいラジオ体操を学んでいただく予定となっております。</p> <p>これを機に地域でもまた何か集いの場面というものが増えると良いなと思っております。</p>
小野会長	何人くらいが参加予定ですか？
高橋	今のところ38人が参加予定となっております。
小野会長	その38人の方が、しっかりとしたラジオ体操を覚えて各地域で教えてもらえれば、これは先生が来て教えてくれるのでしょ？
高橋	そうです。
小野会長	私も参加予定ですが、覚えたら地域で何もわからないでやるよりは簡単なことですが教えることができるかもしれないです。
佐藤副会長	最後でいいので何か一言、参加者に地域で教えてほしいとか説明したほうが良いかと思えます。
高橋	<p>ということでラジオ体操も上手に啓発していきたいなと思えます。</p> <p>あとよろしいでしょうか？（なしの声）</p> <p>続いて4.の協議事項に入りたいと思えます。</p> <p>進行について小野会長にお願いいたします。</p>
小野会長	<p>協議事項ということなのですが、報告の事項で色々と皆さんの意見をお聴きしながら、色々なことを聞きたいなとか、色々なことを確認したいなとか考えがあると思うのですが、本日はせっかく外部からいらした方々がおりますので、ざっくばらんに話をさせていただけたらと思えますので挙手でも何でも良いので発言をお願いします。</p> <p>それではグループワークということで、美里町で、いつまでも自分らしく暮らせるためにということをテーマにしているのですが、非常に広義のテーマなのですが、何かコーディネーターのほうから発言のきっかけをお願いします。</p>
高橋	<p>先ほど横山さんから、そもそもの事業の目的をお話いただいた中で、協議会の目的や役割というところで地域の未来を語る場というお話があったこともあり、今回はグループワークというところで美里町の目指す、どんな美里町だったら安心できるかなというところを自由に話していただきたいなと思っておりました。</p> <p>あと、その中で暮らしの中の課題とかも出てくるのかなと思っていました。そして、課題を解決するための仕組みだったり、ものだった</p>

	<p>り、どんな人がいると良いかなというところも、どんどん発言いただきたいと思っております。</p> <p>先日の6月19日にボランティアグループ情報交換会へ出席してきました。町内にあるボランティアグループ7団体の方々にお出でいただいて、今回と似たようなグループワークをしました。そのグループワークをまとめたものが資料の21から23頁となります。この中でやはり見えてきたものなのですが、課題のところでは、やはり足の問題、移動の問題が出てきました。免許返納だったり、買い物・病院への交通手段がないということが出てきました。</p> <p>もう1つが声かけが希薄化しているのではないかという声が聞かれました。声かけイコール見守りという仕組みとして送迎や移動支援の仕組みを作った方が良いのではという声だったり、見守りの土壌の部分で何か取組ができたなら良いのかなという意見が聞かれました。他にやはり男性の力も必要だねという声も沢山聞かれました。</p> <p>なので、この辺を参考にしながら、この場でお話をさせていただきたいと思うのですが、どのへんからだと話しやすいですかね？</p>
高橋	<p>できればなんですけど、課題というよりも様々な意見を出していただけたらと思います。</p>
小野会長	<p>いつも町長が話していることは安全で安心なまちづくり。</p> <p>高齢者がいかに、この町に住みたいと感じるものを作っていかなければならない。第一に何だかんだ言っても健康でなければなりません。いくら金を持っていても健康でないとどうしようもないので、そのためにラジオ体操だとか介護予防の取組をやっているのですが、いくらお茶っこ飲みをやって、やはり寝たきりではお茶は飲めないで、現在は大きな病院に通っている高齢者が非常に多いわけですね。送迎のバスとか色々な問題もあるけど、何とか健康寿命を延ばすために色々なことをわれわれが考えてやっていくわけですね。だから、具体的にうちの地域ではお年寄りの方を地域で車で病院に運んでいるよとか、牛飼なんかではやっているようですね。こういったことは各地域で益々必要になってきます。</p> <p>楽しいことをやろうというのも大事ですが基本は健康だと思うのですよね。</p>
永沼課長	<p>何が安全安心なことなのか？それにつながるのは何なのかという具体的なことを出していくのも1つの手法かと思います。</p> <p>その1つが健康寿命を延ばす。</p>
小野会長	<p>平均寿命が延びたとしても、寝たきりでチューブまみれであっても</p>

	<p>この平均寿命に入っている事になります。普通の生活を営むことができる寿命が大事なのです。そう考えると結構短いですね。</p> <p>美里町、寝たきりの方が一体何人いることか。病院には動けない方が何人も入院しています。</p>
永沼課長	<p>健康といった時に、身体のこともありますけど心の健康というのも考えていく必要があります。</p>
佐々木委員	<p>やはり健康寿命を延ばしていくことは大事なことであると思うので、私も思うのですが、健康でいられるためには心の健康があって身体がついてくるのかなと思います。</p> <p>寝たきりにするのは簡単であって、話しかけなければ寝たきりになってしまいますよね。話しかける事によって、気持ちが健康になると御飯を食べるために自分で箸を持とうとか、その気持ちがあって行動につながるので、心の健康も身体健康と一緒に両方重要なことなのです。</p>
小野会長	<p>寝たきりにならないためにはどうしたらよいのでしょうか？</p> <p>今、結構、グランドゴルフをやるなど寝たきりになりたくないために様々な運動を高齢者の方が取り組んでいます。そこで色々なコミュニケーションをとったり遊んだりしています。</p>
高橋	<p>逆に寝たきりになってもどんなものがあったら安心ですかね？</p>
佐々木委員	<p>家族の存在なども大事ですね。</p>
佐藤委員	<p>最近、80・50問題なども深刻になってきていますから、やはり家族も含めたケアというものが重要なのだと改めて感じます。今、多くの方が関心を持っているのが引きこもりですね。</p>
伊藤委員	<p>私もシルバー人材センターをやっているせいもあって、このようなことはよく耳にします。その中でなんだかんだ言っても一番大事なのはコミュニケーションです。人との交わりというものがなくなれば駄目になるということです。それともう1つは、それを継続するためには趣味を活かす。それから最後に身体を動かし汗を流して働くということが大事なのです。</p> <p>シルバー人材センターでは80歳を過ぎて働けなくなった方は今までですと辞めていくのですが、元厚生労働省の村木さん、昨年まで全国シルバー人材協会の専務理事だったんです。この村木さんが提案してきたのは、高齢で働けなくなったとしても何らかの形でシルバーに籍を置いて、小さな草取りでも何でも良いからそのような仕事をしながら、なるべく身体を動かして人と交わることが大事だといってお</p>

	<p>ります。シルバーも私は辞めるといふ方に対して引きとめるようにしております。忘年会にくだだけでも良いからとかコミュニケーションをとり人と交わることが健康でいることの第一条件であるといふこと。</p> <p>それからやはり趣味これに身体を動かして働くことが健康維持には必要なのです。厚生労働省ですごいデータがあつて、同じ年代でシルバーに入っている人と入っていない人の医療費の差が、シルバーに入っている方の方が圧倒的に少ないといふことです。これは何度実施しても同様のデータが出ているといふ事です。</p>
佐々木委員	<p>働くといふ意味合いは、私の職場の例ですと土日の看護師は83歳なんですよ。まだ身体的には全然問題のない方で独り暮らしの方なんですよね。地域の方なのですが土日は自転車で通勤しております。たぶん乗っては来ないと思ひます。自転車を引いてくるのだと思ひます。午前中に利用者さんとお茶を飲みながら健康チェックなどをしてもらっているのですが、これを始めたらとても生き生きしてきました。</p> <p>最初はピンチヒッター的な意味合いで来てもらっていたのですが、このまま続けてもらおうといふ事になりました。独り暮らしなので、私たちも地域の見守りの義務もあるので地域の独居老人の状況確認にもなるし、本人は働き甲斐を感じるし、双方の役割があるのです。</p> <p>なお、そこにお金が発生するのです。こういうことを考えていくとまだまだ丈夫な方もおりますので、似たようなことをすれば健康寿命の延びにもつながると思ひます。</p>
伊藤委員	<p>シルバーで働くことは生きがい収入だと言われております。</p>
高橋	<p>やはり1つの繋がりなんですよね。</p> <p>佐藤委員のところではケアマネジャーさんとかホームヘルパーさんとか多くの方が所属しておりますけど、現状で何か課題とかございますか？</p>
佐藤委員	<p>ケアマネジャーなども最近をよく地域での利用者の在り方という事もケアプランの中で考えるようになってきているようなので、積極的にといふか必要に応じて行政区長さんなどと連携を取ったり、地域の皆さんの中で話をさせていただく機会といふか必要性を感じてきているようです。</p> <p>まずケアマネジャーとなると、サービスが必要にならないと、なかなか地域の方と接する機会が無いと思ひますが、JAのケアマネジャーも地域に出向こうといふ事で、今年からなのですが先日も年金支給日の際に田尻支店でテントを開設しまして、ケアマネジャーが健康</p>

	<p>チェックを行いました。機械をレンタルしまして脳年齢や血管年齢の健康チェックをさせていただきながら農協にもケアマネジャーなどの専門職がいるということ、地域で孤立しないようにということをお話しました。皆さんお話を聞いてくださるということは日頃からそのような事を意識してくださる方ということなのですが、短い時間ではありましたがお話を聞いてくださり、このような活動は大切なんだなと実感しました。もっとこれから取組の広がりをもっていこうと感じたところです。</p> <p>7月1日に農協が合併するので合併のイベントと併せてケアマネジャーも健康相談等を開催する予定にしております。</p> <p>さきほど高齢者の従業員の話が出ておりましたが、私どもヘルパーの高齢化が進んでおり70歳を過ぎたヘルパーも多く在籍しておりますが、利用者さんと年が近いこともあり色々な課題を察知してくれることもありますし、担当するケアマネジャーと連携をとっております。今はケアマネジャーもヘルパーもデイサービスも自立支援ということを念頭にサービスを提供できるよう考えております。</p> <p>利用者さんが長い目で自分らしく生きていくことを応援していけるように努めていきます。</p>
<p>小野会長</p>	<p>色々な話が出ましたが、相澤さん、これまでの話を聞いて、ざっくばらんで構いませんので感想と、あとは今後こういうことができるよ等のアドバイスをいただけたらと思います。</p>
<p>相澤氏 (宮城県)</p>	<p>今のお話で私が感じたのは、市町村によって違いはありますが、1割2割の介護保険を使っている要介護者の方と何かしらの支援が必要な方、8割程度の元気な方を分けて考えないとごちゃごちゃしてわからなくなってしまうので、まずは8割から9割の元気な方、これからも元気に町で暮らせると考えた時に、今までは介護予防という考え方が、どちらかという筋トレだったり、運動しろとか、たぶん殆どの人が思っているのです。実はもうそのような時代ではなく、平成26年から27年位からは、先ほど皆さんが仰っていたように体を鍛えることと、日常生活の自分の活動ということと、もう1つ参加、このような場に参加とか仕事の場とか色々な人と交流するという参加、身体・活動・参加の3つが介護予防ですよと言われる時代になっております。</p> <p>私は松島町に住んでいるのですが、隣の89歳のおばあさんに、そのような話をすると全然わからなかったと、介護予防って我々が想像</p>

	<p>すると何か運動でもさせられるのではないかと思っていたと、そのような印象が残っていることが、先ほどの自立支援だったり介護予防という言葉が独り歩きしているのだなということが伺えます。</p> <p>その89歳のおばあさんは玄関先でいつも転んで青痣をつくり、わたしがびっくりして聞くと、そこで転倒したとか言うのですが、その場所って色が判りづらく、なのでその箇所に蛍光のテープを貼ったり、あと足が上がりなくなってきたのを家族が心配して、おばあちゃんができなくなってきたことを補うというサポートをしてあげるといふ、私だって同じようにずっと座っていて皆にやってもらったら体が動かなくなります。その方がここで生活するということは意欲的にできることを自分でやるということが本来のその人を元気にさせることなのです。それを誤った手法で我々子ども世代は病気になるから動くなとあって、結果、病気にさせてしまう。寝たきりにさせてしまう。という意味では、皆さんの先ほどのお話を聞かせていただくと、ここにいる方はすごく勉強されていて、説明しなくとも理解できているので問題はありませんが、これを住民の方と同じ思いでやらないと、単に動け動けと言っても余計なおせっかいと言われるし、何でもやってやると本人が動けなくなるという、すれ違いができてしまうなと思った時に、とにかく皆で同じ思いでということが大事なんだなと改めて皆さんのお話をお聞きして感じたところです。</p>
<p>小野会長</p>	<p>重要なポイントを押さえた発言、ありがとうございます。 次に伊藤さん何か感じたことをお話ください。</p>
<p>伊藤氏 (宮城県)</p>	<p>先ほどの話にもあったのですが、やはり周囲の人がどのように高齢者の方と関わっていくのかということは、とても大事ななと思いました。83歳の看護師さんの話であったのですが、何かしら頼られると意識が「やるぞ!」という気になってくるのですよね。何かしてあげると言われると申し訳なくなってしまう、終いには家に閉じこもりぎみになってしまうので、例えば特別な趣味が無くとも、お仕事なのでやっていたことで助けを請うなどの声掛けすることで、こちらが何かしてあげるといふよりは一緒にやってください、助けてくださいといった形で高齢者の方に関わってもらうことが大事で、そうするためには高齢者の方が支えあいの大切さや介護予防の大事さを理解しているだけではなくて、周りから支えているお子さんやお孫さん含めて皆が支えあいてこういうことで、助けてあげるではなくて、一緒に過ごしていくことなのだ、理解しあうことが大事なのではないかなと、お話を聞いて思いました。</p>

<p>小野会長</p>	<p>確かにお年寄りには何かあればやってあげたくなるのですが、何か高齢者に対しても自分がないと困るではなく、逆の発想で若い人が助けてもらう仕組みを考えるのも良いかと思えます。</p> <p>私の知り合いのボランティアで80歳を過ぎた方が65歳の方の病院までの送迎をやっております。</p> <p>では、次に佐藤さん、何か御意見等お願いします。</p>
<p>佐藤氏 (県社協)</p>	<p>私も以前の仕事で要支援の方々に関わった時期がありまして、比較的軽度な生活のお手伝いが必要だよという位の方々なのですが、明らかに独り暮らしの方のほうが、同じよう要支援1でも要支援2であっても元気なのですよね。体が動くのです。何故かという、しないと生きていけないからです。仙台市の街中だったものですから、あまり助け合いというのも無い地域ですし、生きていくために1人でというと動かざるを得ない、動かなければ死んでしまうので。</p> <p>ただ、どうしてもどこかに障害等があったりして要支援の認定が付いた方ではあったのですが、できない部分は介護保険サービスで補っていたのですが、ただ、家族の中で暮らしている方でも、もちろん元気な方はいるのですが、悪化するスピードが速いと感じました。</p> <p>先ほどお話があったように、家族のサポートが過ぎる場合であったり、あとは地域とのつながりが少ない方、こういった方は非常に外に出る機会が無いので、要支援1から要支援2、要介護へと上がったと思ったら急に要介護5になってしまうとか、明らかに見ていて状態が悪くなっていくのを感じながら仕事をしておりました。</p> <p>家族の中でも非常に理解のある家族もいて、やれることはやってもらうということを理解している家族もいらっしゃるのですが、そうではない、同居ではない少し離れて暮らしている息子さんみたいな方が、離れているという罪悪感から、やってあげなきゃという思いで、何でも手をつけるというところも見られましたし、色々な家族の形というのがあるので、その辺は今から何も手伝わないで自立させた生活を促すというのは難しいですが、このような場で話をしながら地域に少しずつ先ほど相澤さんが話していたようなことを広めていければ皆さんの理解につながっていくのかなと思って話を聞いておりました。</p>
<p>小野会長</p>	<p>次に菊池さんお願いします。</p>
<p>菊池氏 (県社協)</p>	<p>健康の話が出ていたので別の視点からお話します。</p> <p>本日、車で仙台から来ました。宮城県に住んで6年目になるのですが、今日、美里町に来てすごく景色の良い素敵な田んぼ道が続いていて、とても環境が良いところだと思いました。</p>

	<p>こんな良いところをどうやったら残していけるのかななど、この場でも考えていけたらよいのかなと思います。</p>
小野会長	<p>駅東地域などは700世帯近くありますが、震災以降に沿岸部から移ってきた方も多く、1つの町を形成しているといっても大げさではありません。</p> <p>田舎ではありますが本当に住みよい町でもあります。</p> <p>今、色々な御意見をいただき参考になる話も出ておりました。</p> <p>8割の高齢者が実は元気で暮らして、その元気な高齢者が地域活動などに参加するにはどのようにしていけば良いのか？ご存知のとおり地域では既に色々取り組んでいます。</p> <p>例えばお祭りであったり、カラオケ愛好会とか、グランドゴルフとか様々なことをやっていて、地域の高齢者の方々もそれを楽しみにしています。その日を楽しみにしています。うちの地域ではカラオケ愛好会に14人いるのですが男半分、女半分で年齢は75歳以上です。参加者は必ず何か持ち寄って、会費も何も無くやっております。</p> <p>杖について会場まで来る人が半分おります。杖について移動してでも来たいのです。2時間ほど歌って帰っていくのですが、このような場がないと、集まることができないでしょ？この場だけはある程度は作ってあげなくてはならないと思います。</p>
佐々木委員	<p>後は足の問題が出ましたけど、やはり今は地域の活動が重要なのですけど、たまに買い物をしたい時に足の心配ってどうしてもしますよね？いつも家で話をしているのですが、免許証をいつ返納するの？とか高齢者の事故が連日報道される中、返納するのは良いけど買い物をどうするという話になった時に住民バスの乗り継ぎや便数、時間が合わないのです。毎日でなくとも構わないので、月に1度だけでもよいので、買い物に配慮した便を走らせるとか今後必要になってくるのではと感じます。</p> <p>確かにボランティアでやってくれるところもあるでしょうけど。</p>
高橋	<p>山の神では実際にボランティアが活動しております。</p>
永沼課長	<p>利用会員と協力会員の登録です。</p>
小野会長	<p>問題であるのは保険に加入していないから、何かあった場合にはどうしたら良いのかという不安はあるのと先日に話を聞きました。</p>
佐々木委員	<p>任意保険に加入していても使用目的の中で送迎などの用途は保険がきかないので問題がありますが、その辺をどうやってクリアしていくのかということが課題ですよ。</p>

小野会長	<p>うちの地域も地区社協が買い物支援などをやっているのですが、必要なものを買うに行くというよりもコミュニケーションツールの1つとして機能している事業なので、少しだけ趣旨が違う事業となっております。</p>
高橋	<p>不動堂はバスで事業を行っているのですよね？買い物の前にちょっとお楽しみがあるのですよね。</p>
小野会長	<p>バスです。今回は女川に行って帰りにウジエで買い物をしております。独り暮らしの皆さんがバスで色々と話をしながら移動して、最後に買い物をするという感じで年に4回程度実施しております。</p>
永沼課長	<p>この事業には2つの目的があって、1つは引きこもり予防ということで高齢者の方々に外に出る機会を遠足気分で出かけてもらうという目的、もう1つは近くの買い慣れた店で買い物をしたほうが疲れないというリクエストがあるために近場で買い物をするものです。</p> <p>以前、涌谷のイオンで事業の帰路に買い物をしたところ、広くて疲れるという意見をいただきました。それからは必ず、町内のヨークベニマルやウジエスーパー等の慣れた店に必ず寄るようになりました。</p> <p>2つの目的、例えば買い物だけではなかなか人が集まらないのではと思います。</p>
小野会長	<p>楽しみがないと、明日あそこに行くとか、あの人に会えるとか、そういった楽しみはとても大きいのではないのでしょうか。</p> <p>明後日にどこに行くとか、その楽しみだけでも何日も生活に張り合いが出るから。お年寄りには割りとそのようなことが大事なのです。</p> <p>何かこのような機会をつくってやることと、本人が自覚を持つようにしなければいけない。その自覚を持たせるためにはどうしたら良いかを考えるのが大事だと思います。</p> <p>色々話しましたが問題を解決するための取り組みと、現在、お宝探しなんかやっているではないですか？これは是非とも続けていってほしいです。</p>
高橋	<p>継続していきます。</p> <p>1つ話が少しだけずれるのですが、生活支援の部分のお宝というものはすごく大事で、昨日もお電話があったのですが、病院に近所の独居の方を乗せていく際の相談だったのですが、この心の優しさがお宝なのですが、このエピソードを広報誌に載せるとなるとなかなか難しいものがあります。上手く支えあいについて何とか工夫して紹介していければいいなと思っています。</p> <p>伊藤委員のところで生活課題について色々相談されるかと思うの</p>

	<p>ですが、今の時期ですと草取りとか多いですかね？</p>
伊藤委員	<p>3週間くらい前に古川のハローワークに行って、高齢者が仕事を見つめるための詳細について説明してきました。</p> <p>今、国では生涯現役社会へ向かって実働部隊としてシルバーに着目しているとの事です。最終的には短時間でも構わないので働ける環境を作ることも含め情報を集める必要があるとの事でした。</p> <p>働きたいものの、自分の時間は大事にしたい。このような考え方の人にとって、シルバーの労働体系は非常にマッチします。</p> <p>国は働ける元気な高齢者は働いてくださいと力を入れてきております。私は平成16年にシルバー人材センターを立ち上げたのですが、その時に言ったことはシルバー人材センターは近い将来、センターがハローワーク化していくということです。</p> <p>実際、8時間週5日働いてくれということはきつい事です。シルバーの場合は週2～3回、4～5時間で良いので、選択の幅が広がります。今年からはワンコインサービス、1回500円でサービス提供ができないか試行錯誤を始めたところです。やはりゴミ出しが大変との声が聞かれるので、ワンコインサービスなどでニーズへ対応できないかなと考えておりますので、介護事業などで第一線を離れた方は是非ともシルバーに登録していただきたいと思っております。</p>
永沼課長	<p>本日、聞きたかったのですが、シルバーさんやJAさんの方でも生活支援ということで問い合わせとか、JAさんですと介護保険の制度からはみ出しているニーズの相談があると思っております。</p>
伊藤委員	<p>生活支援に当たるような相談は、買い物に帯同してくれないかということが過去にありました。</p>
伊藤委員	<p>掃除や調理、やはりゴミ出しなどは、今の時期、これからはずいぶん相談が多くなるかと。</p>
永沼課長	<p>やはり頼まれる方は年代関係無くなのか、草刈り、清掃、家事援助などは高齢者からの要望？</p>
伊藤委員	<p>高齢者です。</p>
佐藤委員	<p>今、ヘルパーが入っている方で、料金がプラスでも良いのでゴミ出しをしてほしいという話などがあります。JAでも独自のサービスをおこなっております。</p> <p>ただし資格職がやるべきこと、やれることなどについて現在、整理を行っており、今後、掃除とか調理とか生活支援に特化した独自サービスの展開なども視野に入れているところです。</p>
田村	<p>支えあいという近所で済む話と、お金を出して違う人にといいどち</p>

	<p>らも選択肢があったほうがよいですよ。頼みやすい、頼みづらいの もありますし。</p>
永沼	<p>掃除・調理は、ある程度30分とか区切って行えますが、ゴミ出しは自分の家からその集積所までなので、移動時間のほうが時間がかかってしまう、それってどうなのかなと色々と思ったり、ただ、自治会さんでやってみるかなと、例えば火曜と木曜が燃えるゴミの日だから月に2回、火曜日に家の前にゴミを出してもらえば、前もって利用を希望する届出等をしていれば、自治会の方で車を出して改修するかと考えているところも出てきております。</p> <p>あまり時間もかからないだろうというのと、ゴミ出しを不自由に考えているのは、やはり独り暮らしの体が不自由になってきている人が多いということで、ある程度対象が絞れるということです。</p>
伊藤委員	<p>具体的に知り合いで旦那さんが亡くなって奥さんが独りになって、本人も体調があまり良くない、だから、最近はゴミ出しなんかは私が気づいた際には持って行ってやるよとかしています。お金とかなんかではなく隣近所の地域の支えあいです。身近なことから考えてやっていかなければなりません。</p>
永沼	<p>地域の中でみんなで支えあっていきましょうという支え合いと、もう1つはそこでもなかなか大変な人も出てくるから、それはサービスや仕組で支えるということも一方では考えていかななくてはなりません。</p> <p>本日、それが皆さんの御意見で色々聞けました。</p>
田村	<p>助けてと言える先が多くあることは良いことです。近所で済むのであればそれでいいし、選べる専門職とか。</p>
小野会長	<p>関連して、少し前に戻らせてもらいますが、自分らしく暮らせるためにどうしたら良いかということで相澤さんにお聞きしたいのですが、皆が参加できれば良いのだけれど参加を拒否する人、なかなか付き合いをしないという方も多くおります。</p> <p>そのような方も活動に参加させるとか、喜びを与えるとか、コミュニケーションを図るためには、どのような事が大事になるのでしょうか？</p>
相澤氏 (宮城県)	<p>今、話をお聞きして支えあいで色々なこと、ゴミ出しとかやっていたことが良いという話をしていたじゃないですか？その裏にはその方ができなくなったという背景があるわけですよ。</p> <p>ゴミ出しができなくなった。買い物ができなくなった。そこをもっと大事に捉えた方が良いと思うのですよね。</p>

介護予防と生活支援、一律並んではいるのですが、できなくなったからシルバーさんや近所の人にやってもらおうと、その役割が自分から無くなるので本人はもっとできなくなる。動かなくなるという背景もあるので、何でできなくなったとか、何で外に出ないのかという事を把握する必要が大事であると思います。

その辺を高橋生活支援コーディネーターを始め、町の方とか、色々な方、それをキャッチできた方が、例えば今度、ラジオ体操をやり始めましたよね。ラジオ体操をやった際に、やれなくなって来なくなる方、その方をちゃんとキャッチして、何故出れなくなったのかという原因を調べる。ということが多分肝要で、世の中には若い人でもそんなところには入りたくないという方がいるのですが、その原因が、体が弱くなったからとか、例えば入れ歯が合わなくて皆の前でお話をするのが嫌だからとか、直せる原因であれば、そこはもう介護予防の力で直していった方がその場では続けていけることができるのですが、このように解決できるものとできないものが結構あるのですよね。

私が地元の70～90歳のおじいさん方とよく話をするのは、私もリハビリの職種の資格を持っていて、私は食べたり飲んだり、喋ったりという事の専門なのですが、地元の集まりでよく質問されるのですが、それに対して根拠立ててお話ししますが、これは自分で改善できますよね、これは病院に相談された方がよろしいですよ、地域包括支援センターに相談された方が良いですよって、誰かがキャッチした時に、ちゃんと次のステップに繋いであげなければならないと思います。

その時におせっかい、私がやってあげるというのも良いのですが、やってあげながら、この人がどうすれば出てこれるのかという事を双方で一緒に考えてあげたいなというのは地元で住んでいて思います。

小野会長	やはり原因があるんだ？
相澤氏 (宮城県)	必ずあります。それがどこまで過去の出来事などが原因なのかはわかりません。
小野会長	原因を見つけるのは大変だな。
相澤氏 (宮城県)	なので専門職が他の専門の方々と一緒に手を組んでやりましょうというのがこの制度なのです。 バランスよく、支えあいの強さと専門職の協働というのが大事なのです。
小野会長	最後に包括支援センターの方からも何か御意見お願いします。

<p>相原</p>	<p>ずっと話を聞いていて、私、地域の方と美里町がどのような町だったら良いのかなと考えた時期があったのですよね。その時に美里町に住んで良かったねって思える町になるといいねというところを目指してという話が最初だったのです。</p> <p>そこから事業所さん方とも色々な相談が始まったのですが、助けられるとか、自分が何かを使うとかというのが、普段、自分がもし1人暮らしていたとしたら、毎日が特別な事ばかりではないじゃないですか。毎日イベントがあるわけではないし、楽しいことがあるわけでもない。けれども、その家にいることが何ということでもなく普通に生活できる。そして声をかけられたりするのが特別なことではなくて当たり前前に「こんにちは」とか「今日は何していた?」とか、困ったことをちょっと相談するかとか、ということが普通に在る町だったらいいなと、これが特別なことではなくて普通に自然と在る町になればいいなと話しました。やはり我慢しなくてはならないこともあって、自分で何とかしなくてはならないことや、家族に相談しなくてはということがあっても、全部を解決しなくてはとかそういうことではなくて、ただ、ちょっとだけ相談できる人がいればいいなとか、隣の家の人に少し声をかけようとか、そんなことが普通にできるように、その仕組みを社会福祉協議会や私たちが考えなくてはならないなと思っております。</p>
<p>菅井</p>	<p>私は相談業務をしている中で、悩んでいることが2つありまして、1つが先ほど話題になっていた足の問題、やはり、最近高齢者の方の事故が多いので運転免許を返納したいのだけどといった相談が最近多く、美里町では免許返納者にどのようなサービスがあるのか等聞かれるのですが、広報に掲載されている制度を話しても、これしかないんだとか言われることが多く、内容としてはデマンドタクシーとか住民バスの回数券なのですが、そう言われてしまうとこちらも何と言ってよいのかわからなくなってしまって、地域の方に頼っていただくことが多くなってしまふのかなということが、他の方策をお話しできたら良いのになと、自分の知識不足の所もあるのですが、そういったところが悩んでいることと、もう1つが、ゴミ出しの件だったのですが、実際に悩んでいる途中で区長さんとかが一人暮らしの方のゴミ出しとか支援してくれているのですが、その一人暮らしの方が、やってもらって当たり前という態度をとっているので、区長さんもやることに嫌気がさしており、区長さんも徐々に回数を減らしていったら近くの</p>

	<p>頼みやすい人に今度は頼んでいるようで、お互い様という気持ちがあれば上手くいくところでも、やってもらうのが当たり前で受け側が思ってしまうと難しいなということを考えていて、伊藤委員からシルバーさんの話も聞いて、このようなこともあるのだなと今日は思えたので、よかったと感じたところでした。</p>
伊藤	<p>私は総務時代には小野会長さんともよく顔を合わせておりましたが、もともと20代のころ福祉部門に配属されており、昨年度から10年以上間をあけて福祉部門に戻ってきて、基本的に事務屋ではあるのですが、このような会議も極力参加させていただいて話にまぜていただいております。</p> <p>今回の会議も何とかスケジュールを調整して参加させていただいたのですが、今、皆さんが集まって話をさせてもらっている生活支援体制整備事業って、福祉のジャンルだけではないのですよね。</p> <p>福祉の部門や福祉に携わっている方がこの話をしておりますが、結局、ここで話をしていることは最終的には全てのまちづくりに繋がっていくことなんですよね。</p> <p>最終的には福祉だけではなく防災、防犯、交通、子育て色々な所に繋がるような話をしているのだと思いながら参加させてもらっております。</p> <p>役場の中でも、ただ単に事務だけやっていたらよいと考える職員がいるのですよね。何かの形でこのような取組や地域などの取組に関わりを持たせるような仕組みなども必要ではないかと思いました。</p> <p>そのようなことが単なる事務には留まらずに仕事のアイデアにもつながりますし、それが施策やまちづくりにもつながっていくものであると考えます。</p>
横山	<p>本日は色々な所で、このようなこといいよねとか、大事だよねみたいな話が多く上がってきて、町内の皆さんだったり役場の職員だったり、みんなで共有することができてくるといいなと改めて思ったところだったのと、やはり、普段このような機会ではしか会えなかったりするのですが、県の伊藤さんや県社協の菊池さんがこのように思っているのだとか考えているのだとか、初めて聞くことが結構あったりするのです。そのようなことを例えば一緒に考えたりとか、こうしていけるといいなとか思ったりして、支え手が地域の支え手だったり、今、ヘルパーしかないけどヘルパーも人手不足でこれから先大丈夫なんだろうとか考えたりするので、長い目で地域づくりというところから考えていけるといいなと感想として思ったところでした。</p>

小野会長	<p>今は自分さえよければいいという人も多くいます。そのような人たちもいずれはそのような年になっていくのですが、ましてやこのような人たちは地域の行うことに参加しないのですよね。</p>
高橋	<p>皆さんから多くの意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>仕組に関する意見も多く出て、これを実現するために今年度からゆっくりですけど、少しずつですが仕組であったり、どのような人を養成していったらいいのか、話を続けて固めていって、最後はテーマにもありますが、美里町でいつまでも自分らしく暮らせるために、安全安心なまちづくりであったり、健康寿命を延ばして、孤立をしないで繋がりが多くある美里町を目指して、話を進めていきたいと思いません。</p>
小野会長	<p>高橋さんも、更に色々な所に行って多くの方々の話を聴いて吸収して、全然知らなかったことも、まだまだ多くあるかと思えます。</p> <p>積極的に地域に出ていただくようお願いしますね。</p> <p>それでは2番の視察研修についてお願いします。</p>
高橋	<p>視察研修ということで、先ほど生活支援の仕組について皆さんにお話ししていただきましたが、18頁の参考資料1のところでも県内で既に生活支援の仕組としてやっている取組がいくつかあったので、私の気になるところでピックアップさせていただきました。</p> <p>柴田町と東松島市は社会福祉協議会で事業として互助事業、安心サポート事業という事で生活支援を行っているということです。</p> <p>19～20頁に、そのチラシを資料として載せましたが利用者から困りごとがあったら社会福祉協議会に電話が来て、協力員の方を派遣するという形で事業をやっているそうです。</p> <p>他に登米市では老人クラブが行っているというところで、体制整備事業が始まる2年前にモデル地域として始まったそうですが、モデル事業が終わったと共に今は衰退してしまい、あまり活発ではないということです。</p> <p>最後が大崎市岩出山の池月サポートセンターが中心となって、こちらでも仕組づくりを行っているということでした。</p> <p>これらを踏まえて美里町でも仕組作りを考えていくのに、視察に行って現場を見てみようかなと考えております。何もわからない状態でもあるので、この4つの中から1つの場所に行ってみようと思います。</p> <p>委員さん方で、ここに行ってみたい、見てみたいという御意見があれば頂戴したいと思います。</p>

小野会長	皆さん、どこかありますか？高橋さんはどこに興味がありますか？
高橋	私が個人的に行ってみたいなところは柴田町です。活動も平成6年から行っております。きっかけも商工会さんの婦人部からの声がかきかけで始まったという事もあったので興味があります。 (委員：柴田に行きましょうとの声あり。) 今後、日程も含めて調整いたします。 以上になります。
小野会長	では、その他に入ります。
	事務局から資料の説明
	終了 11:52

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和元年 8 月 23 日

委 員 _____

委 員 _____